

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

2013~2014年度 国際ロータリーのテーマ
ロン D.バートン

RI第2510地区 **留萌ロータリークラブ**

会報

2013 ▶ 2014
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ **集中と調和**
会長目標

会長／中出敏彦 幹事／大嶋孝広

プログラム

- 本日
来賓卓話「北海道の課題について」
北海道議会議員 石塚 正寛様
- 次週予定
「年男大いに語る No.2」
阿部 洋一 会員・清水 陸 会員

配偶者誕生日
1月27日 中川 豊美
1月28日 堀 美由貴

No. 2590
第27回 1月22日

出席報告

前
例
会

会員総数……………41名
出免会員…………… 8名
出免出席…………… 4名
基準会員出席……………23名
出席率…………… 72. 97%

前
々
会

第24回 12月22日
欠席会員…………… 9名
内メイクアップ…………… 4名
修正出席率…………… 82. 85%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告 ……………

1. 国際ロータリー日本事務局より、次年度RI 会長テーマが発表されたという連絡がありました。テーマは、「ただ座って暗闇呪うよりも、ローソクを灯したほうがいい」という孔子の言葉を引用し、孔子の教えに心を動かされたホアン会長エレクトが、2014~2015年度会長テーマを「ロータリーに輝きを」とする事を発表しました。

📖 幹事報告 ……………

- 羽幌RCより会報No.1663~1666号及び1月例会プログラムを受領。
- ロータリー日本財団ロータリー米山奨学会より、クラブ特別寄付金明細書が届いております

すので回覧します。

- ロータリーの友電子版の案内が届いておりますので回覧いたします。

👥 委員会報告 ……………

親睦活動委員会 **高田委員長**
先週の新年夜間例会には多くの会員の出席をいただき、ありがとうございます。2次会にも20数人の会員が出席いただきました。多くの会員による親睦が図れたと思います。次回の夜間例会は、2月の創立記念夜間例会です。お楽しみに。

会員研修委員会 **阿部委員長**
後ほど皆様にFAXをお送りいたしますが、2013~2014年度情報集会の開催をご案内いたし

ます。テーマは次年度理事会からの提案で、特別会計と一般会計の一元管理についてと、会員増強委員会からのクラブに入会して良かった事、そして、現状のクラブの問題点についてです。

グループは4班に分けて行います。ちなみにリーダーは、西谷(英)会員、鈴木会員、森(幹)会員、二ノ宮会員です。2月12日の例会にて発表をお願いしますので、それまでに各班で集会を開催してください。クラブより補助として5千円を支給いたします。

ニコニコBOX

- 昨年12月に検査入院いたしました。お陰さまで禁煙することが出来ました。 対馬会員
- 新年夜間例会写真ありがとうございました。
大嶋、行徳、西谷(恭)、堀、
平井、中出、森(幹) 各会員

前 回	525,600円
今 回	17,000円
累 計	<u>542,600円</u>

プログラム

「年男大いに語る」

森 俊二会員

本日は、午年のことは勿論ですが、コミュニケーションが如何に大事かということで、すれ違いが題材の獅子てんや瀬戸わんやの漫才と戦後の女流詩人2人、石垣りんさんと茨木のり子の詩の朗読をしたいと思います。ご飯を食べてゆったりとしたいひと時ですが、まずは漫才で笑っていただき、その後で、少しお話をさせていただきます。

午年の話はあまり面白いものではございませんが、色々調べてみましたので掻い摘んでお話をさせていただきます。

午年は十二支の中で7番目に数えられ、前の歳は巳年、後は羊年でございます。午年は西暦を12年で割って10が余る年が午年となります。

午の月は旧暦で5月、現在の6月でございます。

昔の時刻名で、午の刻は真昼の12時。今の午前11時から午後1時の間の2時間くらいで、現在でも正午と言えば真昼の12時ですからよく分かると思います。昔の小半刻まったとは約1時間のことで、時代劇で一刻(いっとき)前に帰ったと言えば、2時間前に帰ったという事になります。午の方角は南を指しており、地図には子午線というものがありますが、それはここからきております。

午という字は牛の角がない文字を使いますが、正確にはリッシンペンに角のない午で「忤」が正解です。これは突き当たるとか、逆らうという意味があり、午年の人でこの様な性格が多いのはうなずけます。ちなみに、私は至って従順でございます。後に覚えやすくするために、動物の馬というのが当てられたとなっております。

午にまつわる物で何かないかなと考えてみましたが、有名なもので丙午(ひのえうま)というものがあります。これは、西暦を60年で割って46が余る年が丙午の年になります。この丙午というのは珍しく、なかなか巡ってくるものではございません。留萌クラブで1人だけこの丙午の人がおります。阿部会員です。まだ男ですので良いのですが、女性の丙午生まれは大変気性が激しく、夫の命を縮めるという迷信があります。

これは丙午の年に火災が多かった江戸時代の初期の迷信で、八百屋お七が1666年生まれの子午生まれだったとされたことから、女性の結婚に関する迷信に変化して広まっていったとされます。この八百屋お七とはどういう人だったかと申しますと、1666年生まれで江戸本郷追分の八百屋太郎兵衛の娘として生まれました。天和2年(1682年)12月の大火で焼け出されて正仙寺に避難した際、寺小姓の生田庄之助と情を通じ、恋慕のあまり、火事になれば会えるものと放火をし、捕らえられて鈴が森刑場で火あぶりの刑に処せられたと伝えられています。これが瓦版などで伝えられ、5年後に大阪に居た井原西鶴が「好色5人女」の中で取り上げました。この好色5人女は色恋ではなくて魔女だとか怪奇な



女という意味で、この好色5人女は大ベストセラーとなります。この物語を浄瑠璃や歌舞伎で幾度となく脚色され、上映されております。

明治の丙午の時には、若干ですが出生率が5%程度下がっています。昔はいい加減でしたので、丙午生まれでも次の年の1月1日生まれにしたりしたそうです。大正時代は、脈々とお七伝説が引き継がれてきましたので、ついには1906年生まれの女性が結婚適齢期を迎えた時、迷信を否定する談話や縁談が破談となった女性の自殺報道が相次いだとされています。夏目漱石も虞美人草の中で、主人公の男を惑わす悪女「フジヲ」といいますが、彼女も丙午の生まれであったとされています。こんな迷信も昭和になってさらに強くなって、顕著に現れたのが1966年です。

この年は、出産統計史上最悪の25%ダウンとなりました。昭和41年ですから、近代の時代に迷信などを信じるなどありえない事ですが、こんな事を見逃す事が出来ないと、何と1965年11月、丙午の前の年に山形市で法務省山形地方法務局主催となって、丙午追放運動が展開されました。同月21日には市内パレードまでしております。

何故、山形県の法務局がこんな事をしたかと申しますと、理由は子供を生む生まないで離婚調停に至ったとか、嫌がらせを受けたとか、などの相談が相次いだからです。それほど凄かったようです。今日の丙午で言いますと、根拠が無いということで、あまり大きく取りざたされる事はありません。恐れ多くも「紀子様」が1966年の丙午生まれという事であり、この迷信も沈静化しつつあります。

• 石垣りん (1920～2004)

詩人。東京生まれ。1934年に14歳で日本興業銀行に就職して家族の暮らしを支え、詩作を続けながら定年(1975年)まで勤務した。

同人雑誌「断層」創刊に参加し、日常語を用い、働く女性を描いた詩や戦争体験に基づく社会性ある作品を発表した。

「私の前にある鍋とお釜と燃える火」(1959年)
「表札」(1968年) 「石垣りん詩集」(1971年)

• 茨木のり子 (1926～2006)

詩人。本名三浦のり子。大阪生まれ。帝国女子薬学専門学校卒業。

同人誌「權」を創刊。ヒューマニズムに基づく批評精神を持ち、代表作「わたしが一番きれいだったとき」で戦時下の女性の青春を描いた。

「対話」(1955年) 「見えない配達夫」(1958年)
「鎮魂歌」(1965年) 「人名詩集」(1971年)
「自分の感受性くらい」(1977年)
「倚(よ)りかからず」(1999年)

「表札」 石垣りん

自分の住むところは
自分で表札を出すにかぎる
自分の寝泊りする場所に
他人がかけてくれる表札は
いつもろくなことはない
病院に入院したら
病室には石垣りん様と様がついた
旅館に泊まっても
部屋の外に名前は出ないが
やがて焼き場のかまにはいると
とじた扉の上に
石垣りん殿と札がさがるだろう
そのとき私はこぼめるか？
様も 殿も 付いてはいけない
自分の住む所には
自分の手で表札をかけるに限る

第26回 1月15日(水) 天候/曇

精神の在り場所も

ハタから表札をかけられてはならない

石垣りん それでよい

「わたしが一番きれいだったとき」

茨木のり子

* 茨木さんは15歳で日米開戦を、19歳で終戦を迎えた。

わたしが一番きれいだったとき

街はがらりと崩れていった

とんでもないところから 青空が見えたりした

わたしが一番きれいだったとき

まわりの人達が沢山死んだ 工場で 海で

名もない島でわたしはおしゃれのきっかけを落としてしまった

わたしが一番きれいだったとき

誰もやさしい贈り物を捧げてはくれなかった

男たちは挙手の礼しか知らなくて

きれいな眼差しだけを残し皆(みな)発っていった

わたしが一番きれいだったとき

わたしの頭はからっぽで

わたしの心はかたくなで

手足ばかりが栗色に光った

わたしが一番きれいだったとき

わたしの国は戦争に負けた

そんな馬鹿なことってあるものか

ブラウスの腕をまくり卑屈な町をのし歩いた

わたしが一番きれいだったとき

ラジオからはジャズが溢れた

禁煙を破ったときのようにくらくらしながら

わたしは異国の甘い音楽をむさぼった

わたしが一番きれいだったとき

わたしはとともふしあわせ

わたしはとともとんちんかんわたしはめっぼう

さびしかった

だから決めた

できれば長生きすることに年とってから凄く美しい絵を描いた

フランスのルオー爺さんのように ね

「倚(よ)りかからず」 *73歳の時の作品

もはや

できあいの思想には寄りかかりたくない

もはや

できあいの宗教には寄りかかりたくない

もはや

できあいの学問には寄りかかりたくない

もはや

いかなる権威にも寄りかかりたくない

ながく生きて

心底学んだのはそれぐらい

じぶんの耳目

じぶんの二本足のみで立っていて

なに不都合のことやある

寄りかかるとすれば

それは

椅子の背もたれだけ

